

当財団への寄附について



ご寄附・ご支援の方法

●当財団へのご支援には、下記のような方法があります。

寄附
銀行振込

寄附
クレジットカード

ボランティア

物品・
サービス提供

寄附受付
口座

みずほコーポレート銀行 大手町営業部 (普)3514117
公益財団法人東日本大震災復興支援財団
(コウエキザイダンホウジンヒガシニホンダイシンサイフコウシエンザイダン)

詳細については当財団のホームページをご覧ください。▶ <http://minnade-ganbaro.jp/shien/>

たくさんのご支援ありがとうございます!

■これまでいただいたご寄附の件数 (2011年7月~2013年1月)

銀行振り込み : 599件 Just Giving Japan経由のご寄附 : 15,944名

継続的なご寄附 (銀行振り込み) : 50名・団体

歯科技工士が集う 東日本大震災復興支援チャリティ講演会様

有志の歯科技工士の皆さまを中心に、東京・名古屋・大阪・福岡の4都市にて学術講演会と、東京・大阪の2都市にて7回の実習会を開催され、その収益の総額28,181,574円を、「まなべる基金」へ全額ご寄附いただきました。



NSフラメンコ企画様

NSフラメンコ企画様が主催し、2012年10月12日に福島テルサにて開催された「東北復興応援企画公演 ~フラメンコでとけよう、福島へ~」の1公演分の収益を、当財団の支援活動へご寄附いただきました。



KOUZ and MOKOBO様 「ちょっといいことプロジェクト (TYOTTO IKOTO PROJECT)」

KOUZ and MOKOBO様は、震災の翌日2011年3月12日からチャリティブレスレットを制作し、その利益の全額を当財団の支援活動へご寄附いただいています。継続的にご支援をいただいている方の一つです。



みんなで
がんばろう
日本 ●

2012年度 中間報告書

[発行日: 2013年3月11日]

あの日から2年

一歩進み、また戻り、そしてまた一歩。
数え切れない人々とともに、その足を踏ん張り、
私たちは、未来へと、歩きはじめている。
たくさんの想いを胸に抱いて。



分別され、少しずつ処理の進むガレキ
福島県いわき市豊間中学校（撮影日：2013年2月8日）

編集協力：藤城 光／写真：鈴木 穂蔵（ともに福島県いわき市在住）



1年7ヶ月ぶりの砂場遊び
福島県伊達市掛田幼稚園（撮影日：2012年10月11日）



ごあいさつ

公益財団法人
東日本大震災復興支援財団
事業局長

池田 昌人

2011年3月11日。あの日から2年が経つという状況の中、何も変わっていないと感じるものも多くある一方、少しずつ進んでいるものもあると感じています。この2年間の当財団の活動としては、まず初めの1年間は、とにかくが見えにくくなる中、“地域の課題”を丁寧に聞き、それらに対して財団とマイナスをゼロに戻す支援活動だけでなく、被災地の子どもたちが大被災地の状況は刻一刻と変化しています。そうした変化の中でも、職皆さまからのご指導、そして何より継続的なご支援を、切にお願い申し

上げています。2年目からは、“被災地全体の課題”がして実施可能な支援策を検討する取り組みを実施してまいりました。そして、震災発生から3年目に入ろうとしている今、大きく成長できるような取り組みへの支援を開始しています。職員一人一人が被災地域に向き合い、本当に必要とされていることを実現できるよう、尽力してまいります。

理念

復興支援を通じて、
次の世代が幸せに暮らす社会の創生に貢献する。

ビジョン

子どもたちが夢と希望を育む環境を実現する。



■支援数 862名 ※2013年1月23日発表時点。

■支援対象期間 2013年4月～2017年3月(最長) ※卒業までの期間。

■支援内訳

	1年生	2年生	3年生以上	合計
岩手県	47名	16名	32名	95名
宮城県	297名	101名	82名	480名
福島県	148名	83名	56名	287名

※表記の学年は2013年4月時点の学年です。
※表記の県は、震災発生時の居住県です。

■支援総額 5.0億円 ※支援総額は今後の支給予定分も含みます。

■協力団体 GBパートナーズ

■活動の背景と概要

東日本大震災の影響による、経済的な理由により進学・進級が困難になった高校生を支援するため、2011年11月より返済不要の奨学金「まなべる基金」を実施してきました。

その後、震災から1年が過ぎた中でも、経済的な困窮の状況が続き、高校への進学や就学が困難になってしまっているご家庭が多くいることを、被災地の方々から聞きました。そうした声を受け、返済不要の奨学金を毎月2万円、最大3年間支援する第2期の実施を決定いたしました。

■今後の予定

被災各県市町村の教育委員会関係者、及び教員の方々などにお話を伺いながら、次期の実施を検討してまいります。

過去の実績	第1期	支援総額
	支援者数 1,198名 ※2012年10月時点。	6.7億円 ※支援総額は今後の支給予定分も含みます。

まなべる基金 用途指定寄附について

2,000円×10人の方からのご支援で、高校生が1ヶ月高校へ通うことができます。

「まなべる基金 用途指定寄附」へのご寄附は、「まなべる基金」へのみ活用させていただきます。

被災3県出身の高校生が学校へ通い、希望ある高校生活を送り、卒業を迎えられるよう、ご支援をお願いいたします。

まなべる基金
用途指定
寄附受付口座

みずほコーポレート銀行 大手町営業部(普) 3514439
公益財団法人東日本大震災復興支援財団
(コウエキザイダンホウジンヒガシニホンダインサイフコウシエンザイダン)

これまでの支援活動の概要

	支援総額	活動時期
高校生対象給付型奨学金 まなべる基金	11.7億円	2011年11月～
支援団体向け助成 子どもサポート基金	2.9億円	2011年8月～
福島に住む親子のための支援 「ふみだすふくしま」プロジェクト	5.3億円	2011年12月～ ※一部の事業は2011年8月に開始しました。 ※一部終了した活動もあります。
月々の携帯料金を支援 18歳まで携帯料金サポート	0.03億円	2011年8月～
現地の方の声からの支援活動 芋煮会ワークショップから実現した支援	0.24億円	2012年5月～
子どもたちのチャレンジを応援 みやぎ『夢・復興』 ジュニアスポーツパワーアップ事業	0.9億円	2013年1月～
合計	21.1億円	

※支援総額は今後の支給予定分も含みます。



公益社団法人sweet treat 311活動の様子

■助成件数 52件

■支援対象期間 2012年10月1日～2013年4月10日

■助成先の主な支援地

岩手県	8件
宮城県	21件
福島県	19件
その他	4件

■支援総額 9,760万円 ※支援総額は今後の支給予定分も含みます。

■協力団体 GBパートナーズ

■活動の背景と概要

被災地では、政府や行政の手が届きにくい、現地のさまざまなニーズに対応した支援を行う存在として、NPOやボランティア団体が大きな役割を果たしています。

震災発生から2年が経過した現在も、多くの支援団体が被災地で活動を行なっております。その活動の継続を支えるために、支援団体への助成プログラムを継続しております。

■今後の予定

2013年4月に第4期の助成団体を発表予定です。また、2013年度中に第5期の実施を検討しております。

過去の実績	第1期：助成件数 51件	支援総額 9,494万円
	第2期：助成件数 72件	支援総額 9,674万円

子どもサポート基金助成団体

将来を担う子どもたちのための遊び場

創作農家こすもす

岩手県釜石市の約3000㎡の敷地に公園を整備し、遊び場を失った子どもたちが思いっきり遊んだり、農業、ピザ焼き、押し花などを体験できる環境を提供しています。公園では、キッズ祭り、コンサートなど各種イベントも開催されています。

支援いただいた助成金は、将来を担う子どもたちの成長過程に欠かせない遊び場の環境整備等に充て、これからも、被災した子どもたちの笑顔と元気を取り戻す活動を展開してまいります。



自立に向けた段階的なサポートを

プレスクール・エンゼルネット

京都府伏見区で保護者の就労に関係なく保育支援を受けられる保育所です。この度貴財団のご支援により、京都に避難されている方を対象とした無料保育が実現できました。保育所を利用される方々が、保育により休息を取り、京都での生活について改めて考えた上で、自立に向かえるよう段階的にサポートしています。



東北の子どもたちの未来を、 子どもたち自身の手で描ける日まで。

公益社団法人sweet treat 311

宮城県石巻市雄勝町を拠点に「体験による学びを通じてたくましく生きる力を育む機会を差し出す」というビジョンを掲げ活動しています。いただいた助成金は、放課後の学習支援に加え、雄勝の豊かな自然を活かした漁業・農業体験や、IT教育などを地元の方々と共に運営する活動に活用させていただいております。



メディア掲載情報

2012年11月1日
河北新報 掲載記事



寄贈された芝刈り機の横で、財団関係者から目録を受け取る松本理事長(右から3人目)

「陸前高田に」
芝刈り機寄贈
NPO法人「日本ス
ポーターズ」(東北)
の松本栄一理事長が
復興支援財団に助成金申
請していた、芝刈り機は
上巻地区の住民に委託
し、作業してもらう。
クラウド集金を最初
に呼び寄せた日本サッカ
ー協会職員(右)の加藤
久さん(50)「高城原町
町出身は「子どもたち
の教育を生活場所の維持
には、芝刈り機が必要と
考えていた。大変ありが
た」と話した。



ふくしまで歩いてゆこうと決めた人 ほかの土地でふくしまを見守ろうと決めた人
それぞれの心の中にある、ふくしまへの想い。子どもたちへの想い。不安と希望。
降りかかる大きな困難にもめげず、顔を上げて未来へと一歩ふみだす皆さんの勇気を応援する
「ふみだすふくしま」プロジェクト。

子ども向け体験学習プログラム **ふみだす探検隊**

福島県の子どもたちに、放射線量が低い地域での外遊びや、キャンプなどの体験学習プログラムを定期的に提供し、子どもたちがのびのびと遊び、日頃のストレスを和らげるお手伝いをしています。

ふみだす探検隊 2012 夏

- 支援者数 219名(のべ)
- 支援対象期間 2012年7月～2012年8月
- 支援総額 638万円
- 主催団体 近畿日本ツーリスト株式会社、特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト

プログラム名	支援者数	行き先	協力団体
遠野ふるさと体験	40名	岩手県遠野市	特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク
ふるんてい家 夏の自然学校	44名	福島県裏磐梯	NPO法人 フロンティア南相馬
ちびっ子遠足隊	135名	福島県会津若松市 宮城県川崎町	特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト

ふみだす探検隊 2012 秋冬

- 支援者数 2,555名(予定)
- 支援対象期間 2012年10月～2013年3月
- 支援総額 3,759万円 ※支援総額は今後の支給予定分も含みます。
- 主催団体 独立行政法人国立青少年教育振興機構、特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト

プログラム名	支援者数(予定)	行き先	協力団体
リフレッシュ キャンプ	1回80名 (計25回)	福島県猪苗代町 福島県西郷村 宮城県栗原市花山 岩手県岩手郡滝沢村	独立行政法人 国立青少年教育振興機構 (後援:文部科学省、福島県教育委員会)
ちびっ子遠足隊	555名	福島県会津若松市 宮城県川崎町	特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト

■実施日

年末年始を除く毎週末*実施しています。また、ちびっ子遠足隊では、一部平日も実施しています。
*2012年12月29日・30日および2013年1月26日・27日を除く。

■今後の予定

福島県内外でのご要望が多いことから、今後も実施してまいります。また、長期的・定期的な実施を含め、プログラムの内容を検討してまいります。

過去の実績	冬プログラム：支援者数 136名 支援総額 484万円	春プログラム：支援者数 110名 支援総額 349万円
-------	-----------------------------	-----------------------------

未就学児を対象に日帰りの体験学習型保育プログラムを実施する「ちびっ子遠足隊」
子どもたちが外で元気に遊ぶ様子をご紹介します!



参加児童のご両親からの声



子どもたちが強く、元気になりました。

3歳から参加できることや日帰りであること、初めての参加者が優先されるということ、そして何より子どもたちも参加したいという気持ちがあったので申込みました。この活動を通じて、子どもたちは親と離れても一人で過ごせるという自信を得られたとともに、私たちも一時的ではありますが、子どもたちを外で遊ばせて良いかどうかという不安から解放されました。こうした活動がさらに広がるよう呼びかけていきたいです。

| 継続できる活動を目指して |

特定非営利活動法人 移動保育プロジェクト 理事長 上國料 竜太様



震災直後は、放射線への不安や今後の状況が不安定な中、とにかく子どもたちが外で思い切り遊べる環境を作ることを目的に活動を行なっていました。子どもたちが放射線の心配の少ない場所で遊ぶことで、子どもたちだけでなく、親御さんのストレスケアにも繋がっています。また、震災から時間が経過する中、線量の低い地域に「移動して保育する」ということへのニーズが親御さんの中にあることに気づくことができました。長く継続するためにもこうした親御さんのニーズを的確に反映した支援を行い、「福島にいたから得られる」プログラムを実施していきたいと考えています。その中において「ちびっ子遠足隊」の活動は、初めての子どもたちを優先的に参加できるようにしているため、参加者の考え方の変化を鋭敏に感じ取ったり、参加者を通じた口コミなどにも繋がっています。この活動自体が広まっていくことで、多くの親子のために役立てていけると考えています。

取材後記

「どんぐり先生、魔法使いみたい!」

簡単な手品で子どもたちを楽しませる移動保育プロジェクト理事長の上國料さんは、子どもたちから「どんぐり先生」と呼ばれていました。活動の様子は全て上國料さんにより撮影されており、その写真は、いつも、子どもたちへの愛で溢れています。事業者としてのするどい目線だけでなく、子どもたちへの愛にあふれた目線を、直接感じることで取材となりました。

編集担当：佐々木



子どもたちと遊びながら写真を撮る上國料さん



ITを使った学習サポート ふみだす未来の教室 in 南相馬



- 支援者数 2,018名(のべ) ■支援対象期間 2012年1月～随時
- 支援予定総額 700万円
- 協力団体 運営：特定非営利活動法人トイボックス 後援：南相馬市教育委員会
- 活動の背景と概要

被災地では、発達障がいを持つ子どもたち(読み書きなどへの学習支援やコミュニケーション・トレーニングが必要な子どもたち)を受け入れる環境が十分に整っておらず、生活環境全体の改善が求められています。「ふみだす未来の教室」は、こうした子どもたちの、被災地における十分な教育機会の確保のための、電子教材を使った教育支援です。

過去の実績 (2011年7月～2012年5月)	支援者数 1,226名 支援総額 300万円
-----------------------------------	------------------------



めいっ子さんと写る但野市議(右)

行き場を失った親子が救われた場所 南相馬市議会議員 但野 謙介様

震災後、行き場を失った子どもや保護者へのサポートは、地域にとっての喫緊の課題。専門の知見を持ちながらも職を失った保育士の雇用も確保されて、多くの方が救われました。実績ある他地域からの団体の支援もあり、震災以前よりも充実した体制に育ちつつあります。これを機に、今後より多くの方にご利用いただけるよう、地域や行政を巻き込んで広がっていくことを願います。



被災者の生活相談窓口 ふみだす生活サポートセンター

- 支援者数 137名(のべ) ■支援予定総額 454万円
- 協力団体 運営：一般社団法人ふくしま連携復興センター
- 活動の背景と概要

「福島や避難先で暮らす中、不安や悩みはあるけど誰に相談したらよいか分からない」そんな被災者の皆さまの声にお応えし、困りごとや悩みごとを相談できる場として設置されているものです。

過去の実績 (2011年7月～2012年5月)	支援者数 181名(のべ) 支援総額 664万円
-----------------------------------	--------------------------

支援活動報告④

月々の携帯料金を支援 18歳まで携帯料金サポート



兄弟(高校2年生、中学2年生)で支援を受けている石崎さん。現在は祖母のトワさんが兄弟の保護者。

- 支援者数 33名 ■支援対象期間 2011年8月～随時
- 支援総額 259万円 ※2012年12月31日時点。
- 活動の背景と概要

震災でご両親や保護者を亡くされた18歳未満の子どもたちは、240名を超えます。* 当財団では、こうした子どもたちを含むご家族の経済的負担を軽減するため、携帯電話やPHSの料金を月1万円までサポートしています。

*厚生労働省調べ(2012年9月1日時点)。



とても助かっています。 岩手県釜石市 石崎 トワさん(保護者)

震災後、保護者として、2人の孫と一緒に暮らしています。2人とは、帰宅の時間を連絡し合うなど、日常生活の連絡を携帯電話で行っています。年金暮らしの私にとっては、2人分の携帯電話料金も決して楽ではない出費ですが、こうしてご支援いただいている、子どもたちが不自由なく携帯を使っていることが大変ありがたいです。

取材後記

「今度釜石に来る時はうちに泊まってね」

帰りがけ、トワさんと子どもたちはそう言ってくれました。東京から訪れた私たちをたった数時間でこんなにも暖かく受け入れてくれたのは、毎月石崎さんを含む各家庭へ、時に世間話も交えながら電話をかける、岩手県出身の担当・田村のきめ細かな対応のおかげだと感じました。遠い土地からの支援ですが、支援を受けられる方との心の「繋がり」を感じることでできる取材でした。

編集担当：佐々木



田村(写真右)と結望歩さん(写真左)



「今年は誰も芋煮会をやっていないなあ。」
河原で人々が集まり、みんなで芋煮※を食べる。
そんな、震災前は当たり前だった光景を取り戻すため、復興への想いを抱いた人々が集まり、復興への対話をする場所、それが私たちの「芋煮会ワークショップ」です。

※サトイモを煮込んだ東北の郷土料理。味付けは地域によって様々。

芋煮会ワークショップについて

2012年5月から福島県を中心とした被災地および避難先にて、幅広い分野の方々と共に地域の課題について話し合うワークショップを行ってまいりました。このワークショップでは、話し合いを通じ、当財団として支援可能な課題について1つでも取り組むことを目的としています。

- 参加者数 約560名(のべ)
- 開催場所 12カ所(福島県・岩手県・山形県・新潟県・北海道・京都府各市町村)

初めての開催から約10ヶ月。
地域の皆さまのご協力と共に、実現されたものをご紹介します。

園庭への人工芝導入支援

- 支援者数 約100名(南相馬市鹿島幼稚園園児)
- 支援総額 882万円
- 場所 南相馬市 鹿島幼稚園
- 支援日 2012年10月11日
- 協力団体 福島県南相馬市 株式会社 住ゴム産業



■課題の背景と概要
南相馬市では震災後、全ての公立幼稚園、小・中学校の校庭の土を入れ替えましたが、土の質が非常に軽少で、強風や少しの運動で大量の砂塵が舞い上がり、その飛散した砂を吸い込む不安の声がありました。そういった声を受け、砂が飛散せず、運動がしやすい人工芝の導入を支援しました。

メディア掲載情報

2012年10月12日
読売新聞 掲載記事



保育園・幼稚園への砂場や遊具への支援



- 支援者数 1,192名
- 支援総額 1,360万円
- 場所 伊達市内の保育園・幼稚園23園
- 支援日 2012年10月1日より順次
- 協力団体 伊達市教育委員会、伊達市商工会、保原町商工会

■課題の背景と概要

現地の幼稚園の園長先生から、「園庭の表土除去と砂場の砂の入れ替えを行い、放射線の値は低いままだが、1年間利用しないでいたことから、その後の影響を不安に思う保護者があり、子どもたちの外遊びをなかなか再開できない」というお話を受けました。そうした声から、安心して外で遊んでもらうため、伊達市内の幼稚園・保育園のうち、希望のあった園を対象に、砂場の砂の入れ替えと、遊具のサビ落とし・塗装を支援しました。

全国の放射線量の見える化マップ

- 支援総額 93万円
- 支援日 2013年2月4日公開

■課題の背景と概要

放射線見える化マップは、日本全国の各地で計測された放射線の値を、それぞれの値に応じて色付けし、視覚的に放射線量が分かるようにしている取り組みです。福島県内でワークショップを実施する中、各地にて、「全国のリアルタイムの放射線量が、ひと目で見て分かるようなものが 必要」というご意見を多く聞き、実現したものです。



<http://minnade-ganbaro.jp/houshasen/>

